

近畿大学生の国有林視察を受け入れました！！

箕面森林ふれあい推進センター（以下「センター」という。）並びに京都大阪森林管理事務所（以下「京都大阪所」という。）では、近畿大学との協定*に基づき、令和2年11月26日（木）、近畿大学生27名、院生1名、担当教授3名の視察を受け入れました。京都大阪所からは中村所長外2名、センターからは高山所長外1名が対応しました。

まず始めに、中村京都大阪所長から歓迎の挨拶を行った後、高山センター所長から、センターが取り組んでいる「オオクワガタの棲（す）める森づくり」の場所を案内しながら、ポイント毎に説明を行いました。

それぞれのポイントでは、当センターが取り組んでいる「オオクワガタの棲（す）める森づくり」、「森林環境教育プログラム『森の探検隊』の作成と実施」、「シカの被害対策」、「森林環境教育教員研修」、「森林環境教育用教材の作成」などについて、解りやすい内容となるように努めました。矢放係員からは、自らが創作した紙芝居「雨水のぼうけん」について説明を行いました。

説明では、森林内に入って下草を刈ったり木本を伐ったりすること、森の探検隊プログラムの実施に向けての事前準備や連絡調整など具体的な仕事の内容や達成感、森の探検隊プログラムの実体験などを交えて説明を行いました。最後に、私たちがこの仕事を選んだ理由と感想についても話しました。



京都大阪所長から挨拶



レクリエーションの森としての森林整備を問う



『森の探検隊』及び『シカの被害対策』の説明



紙芝居『雨水のぼうけん』についての説明



『昆虫ベッド』の説明

学生からは、「植栽されたクヌギが順調に成長して利用できる太さになった場合、台場クヌギに仕立てるとの説明でしたが、伐った木はどのように利用されるのですか。」、「林野庁に入るための公務員試験の区分はどのようになるのですか。」、「シカの捕獲事業を実施されているとの説明でしたが、地元住民などからの反対意見はなかったのですか。」、「昆虫ベッドに放虫されたカブトムシはどこ産ですか。」などの質問がありました。



真剣なまなざしで説明を聞く学生達

これに対して、「台場クヌギに仕立てるために伐った木は、この場所ではシイタケ原木に使用して、森の探検隊ポイントとして利用したいと考えています。なお、この北摂地域での利用方法としては、炭焼きの原材料として利用し菊炭を製炭するのですが、国立公園内であるため、火気の使用が禁止となっていることから炭焼き体験の実施予定はありません。」、「国家公務員総合職や林野庁採用試験の区分は大卒程度(林学)(土木)(建築)(行政)となっています。」、「箕面市やボランティア団体が多数参加している協議会と連携した取組を行っていることから大きな反対意見は聞こえてきていません。」、「昆虫ベッドのカブトムシは、当初は箕面市止々呂美産でしたが、現在は、昆虫ベッドが良い環境であることから箕面国有林周辺から幼虫が集まっています。」とセンターなどから回答しました。約1時間の視察でしたが、大学生達は真剣な眼差しで聞き入ってくれていました。



高木性広葉樹の保残についての説明

次に場所を移動して、京都大阪所から平成28年度に皆伐し、公益的な機能を重視した多様な森林整備を実施している場所で、高木性広葉樹の保残、森林の複層状態への誘導、コンテナ苗の活用、シカ防護柵の設置状況などについて、平井森林技術指導及び平尾森林官から説明を行いました。ここも約1時間の視察でしたが、大学生達は真剣な眼差しで聞き入ってくれていました。

担当の教授からは、「現在の森林・林業の概要、技術等は講義などで教えてはいるのですが、やはり現場を見てそれを体験することで学生の身についていくことを実感しています。」「環境に興味のある学生にとって、環境保全活動自体が仕事になると受け取り、今の国有林はとても魅力的に映るようです。公務員志望の学生もいることから、とても参考になったかと思えます。」との感想を頂きました。

当センターでは、協定に基づく取組の一環として、今後も視察案内などに積極的に取り組んでいきます。

※林野庁近畿中国森林管理局と近畿大学は、調査研究や人材育成等に関する連携協力協定を締結しています。詳しくは、近畿中国森林管理局ホームページ掲載の令和元年10月21日近畿中国森林管理局プレスリリースをご覧ください。